

公表

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	あゆみん下新庄		
○保護者評価実施期間	令和 7年 1月 20日		～ 令和 7年 2月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数) 21
○従業者評価実施期間	令和 7年 1月 20日		～ 令和 7年 1月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 3月 31日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多機能で幅広い年齢層の利用児童がいるため、身近なロールモデルが存在する。また、低年齢の児童に対する配慮や加減などを学ぶ相互のコミュニケーションの練習の機会になっている。	リアルタイムなコミュニケーションや社会適応の訓練の実践。	さらに児童への目配り・気配りが高まるよう、業務効率化・フローの見直しを検討中。
2	送迎に添乗員が必ず同乗している。	児童の安全のみならず、適切な運行を行うための相互確認を行っている。	安全運行に対するコンプライアンスの強化及び法改定など、新しい情報に注意を払い取り込んでいく。
3	療育のツールを必要に応じて開発・更新している。	手作りで汎用性が高く、児童の成長・発達に合わせ改良している。	基本的な保育・療育の最新情報を取り込み、組み込む。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	完全な音声遮蔽の空間はないため、声や音の強い刺激に敏感な児童は滞在時間の調整が必要。	設備・構造上の課題。	必要に応じて聴覚刺激の軽減方法を提示し、事業内外問わず過ごしやすい手段を模索する。
2	小学校でプログラミングが始まり、事業所でもニーズがあるが、対応できる機会が限られている。	自由度の高い内容のため、自立して取り組める目的・段階・ゴールの設定が必要。	必要に応じてルビ振りなどをしながらマニュアルを準備する。
3			

公表

## 保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果

事業所名 あゆみん下新庄

公表日 令和 7年 3月 31日

利用児童数

22 令和 7年 2月 15日

回収数 21

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	16	2	1	1		
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	15	1	0	5		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	18	0	0	3		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	20	0	0	1		
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	19	1	0	1		
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	19	1	0	1		
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	21	0	0	1		
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	20	0	0	1		
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	20	0	0	1		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	15	2	0	4		
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	1	3	3	14		
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	20	1	0	0		
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	19	1	1	0		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	5	3	9	4		
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	15	4	0	0		
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	21	0	0	0		
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	20	1	0	0		
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	0	2	11	8		
19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	15	5	0	1			

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	18	1	0	1		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	17	1	0	3		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	19	0	0	2		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	12	1	0	8		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	12	1	1	7		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	16	1	0	4		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	14	4	0	3		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	21	0	0	0		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	19	2	0	0		
	29	事業所の支援に満足していますか。	18	3	0	0		

公表

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

事業所名		あゆみん下新庄		公表日		令和 7年 3月 31日	
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		○	
2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。			○	送迎時は必ず添乗員が同乗。	配置数は適切である。児童対応・業務処理など、職員個々の知識・スキル・能力の向上が課題。	
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○		一日の流れ・優しい言葉の見本掲示、タイムタイマーによる区切りのタイミングの視覚化など。		
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		○	0			
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		○		必要に応じて相談室・パーティションを使用		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。		○			旧来の業務フローにより業務の滞りが生じることもある為、優先順位の見直しを定期的に必要な
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		○			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		○			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。		○			
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		○			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。		○			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。		○			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。		○		計画は担当者会議のほか、回覧し職員全員が閲覧できるようにしている。	利用児童個別の感覚・認知に対する支援者の知識・理解に研鑽が必要。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		○			Vineland-II の尺度構成 など、客観視が可能なツールの導入を検討。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。		○			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。		○			企画立案の担当者を決めるなど、事前に協議できる仕組み作りは必要。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。		○			

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。		○	シフト・パートなど時差出勤もあり、全体打ち合わせと個別の申し送りを併用している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。		○	終業時刻が送迎終了と同時に多く、翌日の打ち合わせで兼ねている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	○			地域交流の機会は、福祉サービス利用の個人情報を見逃さずとも周知してしまう側面があり、慎重さを要する。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○			
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		○	スーパーバイズの機会はないが、必要に応じて研修を受講している。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○		24に同じ
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		○		かつての福祉制度や区政に対する要望・協議の機能が薄まり、利用者・地域の声を政策に届ける機会が見えづらい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○		
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		24に同じ
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			家族周知と防犯訓練は喫緊の課題。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○			
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			保護者経由で情報を得ている。指示書を必須化するのであれば公費負担などで補助されることが望ましい。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○				